

R7の方向性

○ 大阪・関西万博に向けた関係機関と連携した利用促進事業の推進

大阪・関西万博を誘客のチャンスと捉え、地元自治体と沿線関係団体、JR西日本等が一丸となった効果的な事業を実施により、JR加古川線の更なる利用促進につなげる。

○ 鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援

学生の通学、沿線企業従業員の通勤などの日常利用促進や、地域住民が主体となった駅周辺の賑わいづくりに対する支援を通じて、鉄道利用の気運醸成と継続した利用促進につなげる。

○ イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

各団体が実施するイベント等での相互連携、他の団体の取組とのコラボ、チラシの配布、記者発表等の協力体制を強化する。

R7の総括

○ 大阪・関西万博に向けた関係機関と連携した利用促進事業の推進

- ・万博期間中、臨時増便やフィールドパビリオンを巡る貸切列車、地元地域と連携したリレーマルシェの連続開催（7/26、8/9、8/22）など集中的に利用促進に取り組んだ。万博終了後も継続してリレーマルシェ（11/22、12/26）を開催するなど、路線維持に向けた気運醸成を高めている。
- ・利用促進により輸送密度が前年度と比べ大きく増加している。〔4～10月輸送密度：350人（R6年間輸送密度：293人、約20%増）〕

○ 鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援

- ・日常利用の更なる利用者増に向け、新たに「通勤定期券購入補助事業」（20名）や「駅等周辺駐車場利用料金助成事業」（9名）を実施するとともに、「通学定期券購入補助事業」（86名）、「社会学習利用助成」（173名）、「団体利用助成」（1115名）など多くの方々が利用し、鉄道利用のさらなる促進を図ることができた。
- ・引き続き鉄道利用の気運醸成を図り、地域住民が主体となった賑わいづくりを進めていく。

○ イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

- ・JR加古川線リレーマルシェ等駅周辺のイベントに、沿線高校生が参画するなど、地元自治体や地域協議会、JRによる一体となった取り組みで利用促進につなげることができた。（イベント日数：6日間、参加者数：約5,100人、加古川線利用者数：約1,080人）
- ・引き続き、連携、協力体制のもと事業を実施していく。

1 フィールドパビリオン等を巡る貸切列車の運行【新】

観光需要の増加

【概 要】

事業内容 フィールドパビリオン等を巡る駅発着の貸切列車を運行し、北播磨地域と丹波地域への誘客を促進した。

- ①丹波地域
 - ・丹波竜の里公園・元気村かみくげ（化石発掘体験）
 - ・丹波市漢方の里運動公園（旧薬草薬樹公園）（パンづくり教室）
 - ・たんば恐竜博物館（見学）
- ②北播磨地域
 - ・西脇市郷土資料館（ガイドによる解説・見学）
 - ・播州織工房館（見学・買い物）
 - ・旧来住家住宅（ガイドによる解説・見学）
 - ・日本へそ公園（テラドームにてプラネタリウム鑑賞 等）

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（R7予算額：2,700千円）

実施期間 ①8月2日（土）（丹波地域）

②9月13日（土）（北播磨地域）

実施結果 ①28名 ②27名（定員30名）

【成 果】

- ・募集開始後、即完売となり、沿線の地域資源のポテンシャルの高さを感じることができた。
- ・参加者がリピーターとなって家族や友人と来てもらえるよう、当日は加古川線車内でのトークイベント、化石発掘体験、日本酒の試飲を行い、加古川線と沿線地域をPRした結果、「新しい発見があり、もう一度来たい」等の声が聞かれた。

【今後の展開】

引き続き、沿線の魅力を発信し、加古川線の利用促進につなげていく。



電車内トークイベント



丹波地域（たんば恐竜博物館）



北播磨地域（日本へそ公園）

2 地元高校生デザインの播州織中づくり広告による鉄道利用促進

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容 県立西脇高校生がデザインした「播州織中づくり広告」の車内掲示による鉄道利用の呼びかけ

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（協力：西脇高校、繊維工業技術支援センター）（R7予算300千円）

実施期間 10月9日～10月29日（広告掲示期間）

実施結果

沿線の県立西脇高校生、県立繊維工業技術支援センターの協力により、「駅名」や沿線市の「市花」、市のマスコットキャラクター「にっしー」(西脇市)、「ちーたん」(丹波市)をデザインした播州織中づくり広告を作成し、JR加古川線全車両内に掲示した。



【成果】 地元高校生が「さあ、加古川線を愛そう」をテーマに思いを込めてデザインしたという話題性が、功を奏し新聞でも紹介され、加古川線の現状を広く知ってもらうことができた。

【今後の展開】 地元高校生など地域と連携を図りながら、地元気運醸成に取り組んでいく。

3 路線を丸ごとテーマパーク化！新たな観光需要の創造による加古川線利用促進事業【新】

観光需要の増加

【概要】

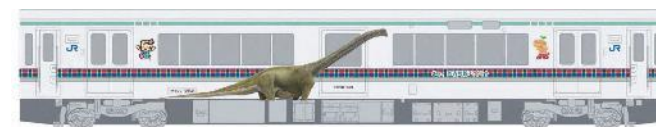
事業内容 ①「加古川線ラッピング列車」(丹波竜・西脇チェック)の運行
② 沿線施設の「恐竜AR」との写真投稿（地元特産品等プレゼント）
③WEBを活用した「恐竜&加古川線検定」の実施

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（R7予算額：6,600千円）

実施期間 ①R7.11.23～R8.9月末、②③ R7.12.21～R8.3月末

【成果】

- ・「ラッピング列車」はデザインが好評で、新聞報道やSNSで複数発信されるなど話題となり、加古川線の現状等について広く発信することができた。
- ・「恐竜AR」では、沿線施設訪問により周遊を促進することができた。
（二次元コード読み取り回数3,858回）
- ・「恐竜&加古川線検定」は加古川線の理解を深める機会となった。（回答数 405件）



ラッピング列車

【今後の展開】 事業により、加古川線の利用促進や認知度向上につなげていく。

4 JR加古川線維持・利用促進地域協議会等と連携したリレーマルシェ等駅周辺イベントの開催

日常利用の促進

観光需要の増加

【概 要】

事業内容 駅周辺の賑わい創出、加古川線の利用促進を目指し、JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会や地元自治会等と連携したマルシェなどを開催（R7予算額：9,630千円）

実施結果

事業名	開催日	場 所	実施主体等	参加者数	うち 鉄道利用者
北播磨かんきょうフェスタ	6/8 (日)	日本へそ公園、 日本へそ公園駅前	・北播磨県民局 ・西脇市 (協力) 西脇北高校	約900名	約180名
リレーマルシェ× 山田錦日和	7/26 (土)	日本へそ公園駅前	・北播磨県民局 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会 ・山田錦日和実行委員会	約500名	約90名
リレーマルシェ 「へそマルシェ」	8/9 (土)	日本へそ公園駅前	・JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会	約 800名	約140名
リレーマルシェ 「久下村夜市」	8/22 (金)	久下村駅周辺	・丹波県民局 ・久下自治振興会	約1,100名	約270名
リレーマルシェ ×空飛ぶランタン	11/22 (土)	日本へそ公園駅前	・JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会 ・JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会	約900名	約170名
リレーマルシェ 「谷川昼市」・ 「久下村ランタン 祭り」	12/6 (土)	谷川駅周辺、 久下村駅周辺	・丹波県民局 ・JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会 ・久下自治振興会	約900名	約230名



北播磨かんきょうフェスタ



久下村夜市



リレーマルシェ×空飛ぶランタン

【成果】

- ・万博期間中、地元地域と連携したリレーマルシェの連続開催（7/26、8/9、8/22）など集中的に利用促進に取り組んだ。
- ・また、万博終了後も引き続き継続してリレーマルシェ（11/22、12/26）を開催するなど、地元住民の気運醸成と鉄道利用者増加につなげることができた。

【今後の展開】 引き続き実施することで、地元住民の更なる気運醸成につなげていく。

5 定期券購入・定期券購入者自転車貸出・駐車場利用料金の支援事業（拡）

日常利用の促進

【概要】

事業内容

- ①通学定期券購入補助（実施主体：西脇市、丹波市 R7予算額：2,982千円）
通学定期券を購入する学生〔市内に在住又は在学〕に対し購入費を助成（丹波市は在住のみ）
- ②【新】通勤定期券購入補助（実施主体：西脇市、丹波市 R7予算額：1,425千円）
通勤定期券を購入する者〔市内に在住又は在勤〕に対し購入費を助成
- ③通勤・通学自転車無償貸出事業（実施主体：西脇市 R7予算額：296千円）
駅からの二次交通確保のための通勤・通学定期券購入者〔①②の者〕へ自転車無償貸出
- ④【新】駅等周辺駐車場利用料金助成（実施主体：西脇市 R7予算額：1,200千円）
鉄道等の定期券購入者〔市内在住〕を対象に駅等周辺駐車場の利用料の助成

実施期間 4月～

実施結果 利用者：①86名②20名③15名④9名



無償貸出自転車

- 【成果・課題】
- ①昨年度に比べ利用者が増加した。自転車通学から電車通学へ変更した利用者もあり、好評を得ている。
 - ②自動車通勤から電車通勤に変更した利用者が多く、鉄道利用への転換に有効な取組となった。
 - ③利用者からは非常に助かると好評を得ている。より多くの方に有効に利用いただけるよう更なる周知が必要
 - ④駐車料金の補助をすることにより自動車利用から公共交通利用へと交通手段の転換を進めることができた。

【今後の展開】 制度を継続し、さらに周知を図ることにより、鉄道利用者の増加を図る。

6 加古川線団体利用助成事業

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容

- ①社会学習利用助成・・・学校園等が加古川線を利用して行う社会学習活動に対し運賃を助成
- ②団体利用助成・・・3名以上の団体利用に対し運賃を助成（5名以上→3名以上に拡充）

実施主体 西脇市、丹波市（R7予算額：①550千円、②700千円）

実施期間 4月～

実施結果 利用者：①小学校5校（116名）、中学校1校（16名）こども園1園（41名）
②135団体（1115名）



西脇小学校による遠足利用

【成果・課題】 沿線の学校園や一般団体で補助制度を利用した鉄道利用を進めることができた。今後、この地域で活動の幅を広げていく若い世代や、一般の方のJR加古川線への愛着を育むため、より多くの方に制度を利用してもらうことが必要。

【今後の展開】 引き続き、多くの方に鉄道を利用してもらうため周知を進める。

7 JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会の取り組み

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容

- ①緊急応援企画 ～ライド&ゲット！電車に乗って、プレゼントをもらおう～ の実施
電車に乗るとガチャガチャ抽選会に参加できる乗車促進キャンペーン
(実施期間：10/1～10/13(利用者数63名))
- ②乗車を呼びかけるチラシの配布等啓発の実施
西脇市茜が丘複合施設Miraie(みらいえ)、たんば恐竜博物館(実施日：9月13日(金))
- ③リレーマルシェなど利用促進イベントへの参画(7/26、8/9、8/22、11/22、12/6)
- ④啓発資材の作成〔懸垂幕(3枚)・啓発チラシ(約37,000枚)・沿線サイクリングマップ〕等

実施主体

JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会

(R7予算額 1,000千円〔西脇市：丹波市＝1：1〕)

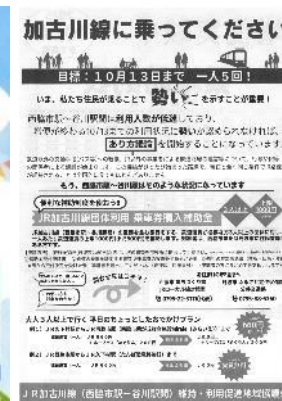
構成：黒田庄まちづくり協議会、比延地区自治協議会、久下自治振興会

【成果】

設立から2年目をむかえ、地域協議会のメンバーが、啓発チラシを直接住民に渡して利用促進を呼びかけるなど、積極的な啓発活動が、地元住民の気運醸成につながっている。また、利用者に向けて市が行う「団体利用助成」でも住民に対して申請支援を行うなど、行政と連携した取組は利用促進につながっている。

【今後の展開】

引き続き、行政と連携しながら住民の鉄道利用の呼びかけ等の利用促進の取組を進めていく。



啓発チラシ配布(みらいえ)

8 加古川線の増発及び特急列車を谷川駅に臨時停車する実証実験【新】

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容 昼間時間帯の列車を増発することで、加古川線（西脇市～谷川駅）の利用が増加するかどうか検証。併せて、特急こうのとり谷川駅への臨時停車を実施

実施主体 JR西日本

実施期間 4月13日（日）～10月13日（月・祝）

実施結果 ①加古川線（西脇市～谷川駅間）増発実証実験
1日2往復4本実施 平均乗車人数 10.5人/本
②谷川駅特急こうのとり臨時停車実証実験
こうのとり12号、14号、16号、17号の4本実施 平均乗換者数 0.6 人/本

【成果】

- ①増発列車の平均乗車人数10.5人/本は乗車率では6.3%であり、昼間時間帯での増発列車の利用者は少なかった。※定員 125系（1両）：114人、103系（2両）：278人
- ②谷川駅に臨時停車した特急こうのとりと加古川線を乗り換える利用者は少なかった。



9 「ぶらり加古川線tabiwa 1Dayパス」の発売【新】

観光需要の増加

【概要】

事業内容 加古川線を1日乗り放題できるデジタルパスを発売

実施主体 JR西日本

実施期間 4月13日（日）～10月13日（月・祝）の計184日

実施結果 発売実績 861枚

【成果】

全体の4分の3が兵庫県内からの利用だった。
その他、大阪府や東京都、富山県など各地から利用いただいた。



令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【新】フィールドパビリオンを巡る貸切列車の運行	フィールドパビリオン等を巡る貸切列車を運行し、北播磨地域と丹波地域への誘客を促進した。	2,700千円	JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間)利用促進協議会			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 ① 8月2日（土）（丹波地域）、② 9月13日（土）（北播磨地域） ①28名②27名（定員30名） 【成果】 ・募集開始後、即完売となり、沿線の地域資源のポテンシャルの高さを感じることができた。 ・参加者がリピーターとなって家族や友人と来てもらえるよう、当日は加古川線車内でのトークイベント、化石発掘体験、日本酒の試飲などを行い、加古川線と沿線地域をPRした結果、「新しい発見があり、もう一度来たい」等の声が聞かれた。 【今後の展開】 引き続き、沿線地域資源の魅力を発信し、加古川線の利用促進につなげていく。			●	●	
地元高校生デザインの播州織中づくり広告による鉄道利用促進	県立西脇高校の生徒がデザインした「播州織中づくり広告」の車内掲示による鉄道利用の呼びかけ。	300千円	JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間)利用促進協議会			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 沿線の県立西脇高校生、県立繊維工業技術支援センターの協力により、「駅名」や沿線市の「市花」、市のマスコットキャラクター「にっしー」(西脇市)、「ちーたん」(丹波市)をデザインした播州織中づくり広告を作成し、JR加古川線全車両内に掲示した。 【期間】 R7.10.9～10.29 【成果】 地元高校生が「さあ、加古川線を愛そう」をテーマに思いを込めてデザインしたという話題性が、功を奏し新聞でも紹介され、加古川線の現状を広く知ってもらうことができた。 【今後の展開】 地元高校生など地域と連携を図りながら、地元気運醸成に取り組んでいく。			●	●	

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】啓発資材の作成	加古川線に関連したポスターやグッズなどを作成し、利用促進の啓発、PR資材として活用した。	900千円	JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間) 利用促進協議会			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 市のマスコットキャラクター「にっしー」（西脇市）、「ちーたん」（丹波市）や西脇チェックを使用したロゴマークを作成し、それをデザインに使用した汗拭きシート（2,000個）とトートバック（2,000枚）をイベント等で配布した。 【成果】 イベント等での配布により、加古川線の認知度向上や地元意識の醸成に貢献した。 【今後の展開】 今後も加古川線の認知度向上や地元意識の醸成に取り組んでいく。			●	●	
【新】JR加古川線利用促進PR	①イベント来場者等への啓発 イベント来場者（約200名）にチラシを配布し、JR加古川線の利用を呼びかけた。 ・イベント名 「あそびマルシェ」 ・実施時期 5月3日（土・祝） ・場 所 西脇市茜が丘複合施設Miraie	—	JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間) 利用促進協議会			
	②新聞折込での啓発 PRチラシ(市民向け利用補助案内等)を、新聞折り込みし、利用促進を図った。 ・実施時期 ①5/31(土)朝刊(3社) ②2/6 (金)朝刊(6社) ・実施世帯数①1.8万世帯②2.2万世帯 ・対象地域 西脇市、丹波市	253千円		●	●	
(実施結果・今後の展開等)	【成果】 ①イベントでの啓発により、幅広い年代層に利用を呼びかけることができた。 ②沿線市全世帯の新聞折込により、利用補助制度を広く周知することができた。 【今後の展開】 今後も加古川線の認知度向上や地元意識の醸成に取り組んでいく。					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【新】路線を丸ごとテーマパーク化！ 新たな観光需要の創造による 加古川線利用促進事業	①「加古川線ラッピング列車」(丹波竜・西脇チェック)の運行 ②沿線施設の「恐竜AR」との写真投稿（地元特産品等プレゼント） ③「恐竜&加古川線検定」の実施	6,600千円	JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間)利用促進協議会			
(実施結果・今後の展開等)	【実施期間】 ①R7.11.23～R8.9月末 ②③ R7.12.21～R8.3月末 【成果】 ・「ラッピング列車」はデザインが好評で、新聞やSNSで複数発信されるなど話題となり、加古川線の現状について広く発信することができた。 ・「恐竜AR」では、沿線施設訪問により周遊を促進し、「恐竜&加古川線検定」は加古川線の理解を深める機会となった。（恐竜AR二次元コード読み取り回数3,858回）、（恐竜&加古川線検定回答数 405件） 【今後の展開】 事業により、加古川線の利用促進や認知度向上につなげていく。				●	
わが町考え隊事業の推進	hesocityclub代表 堀井氏を中心に、地域活性化策を展開。SNSによる情報発信、各種イベントへの参画やマルシェなどを開催した。	700千円	北播磨県民局 hesocityclub(hcc)			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 ・加古川線リレーマルシェへの出店（7/26） ・マルトリエの開催（10/5、参加者約100名） ・SNSによる情報発信等 【期間】 4月1日～3月31日 【成果】 マルトリエの実施やSNSによる情報発信により、地域外の高校生や大学生が参画するなど活動の輪が広がっている。			●	●	

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
JR加古川線維持・利用促進地域協議会等と連携したリレーマルシェ等駅周辺イベントの開催	①北播磨かんきょうフェスタ ・実施時期 6月8日（日）10時30分～15時30分 ・場 所 日本へそ公園駅前	1,000千円	北播磨県民局、西脇市（協力：西脇北高校）			
	②リレーマルシェ×山田錦日和 ・実施時期 7月26日（土）16時30分～20時 ・場 所 日本へそ公園駅前	1,200千円	JR加古川線維持・利用促進地域協議会、山田錦日和実行委員会、北播磨県民局			
	③リレーマルシェ「へそマルシェ」 ・実施時期 8月9日（土）16時30分～20時 ・場 所 日本へそ公園駅前	2,000千円	JR加古川線維持・利用促進地域協議会、JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会			
	④リレーマルシェ「久下村夜市」 ・実施時期 8月22日（金）16時30分～20時 ・場 所 久下村駅周辺	861千円	久下自治振興会 丹波県民局			
	⑤リレーマルシェ×空飛ぶランタン ・実施時期 11月22日（土）16時30分～20時 ・場 所 日本へそ公園駅前	1,815千円	JR加古川線維持・利用促進地域協議会、JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会、JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間)利用促進協議会	●	●	
	⑥リレーマルシェ「谷川昼市」・久下村ランタン祭り ・実施時期 12月6日（土） (谷川昼市・谷川駅周辺) 10時30分～15時30分 (ランタン祭・久下村駅周辺) 17時00分～20時00分	2,754千円	久下自治振興会、丹波県民局、JR加古川線(西脇市駅～谷川駅間)利用促進協議会			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 ① 参加者 約 900名、うち加古川線利用者 約 180名 ② 参加者 約 500名、うち加古川線利用者 約 90名 ③ 参加者 約 800名、うち加古川線利用者 約 140名 ④ 参加者 約 1,100名、うち加古川線利用者 約 270名 ⑤ 参加者 約 900名、うち加古川線利用者 約 170名 ⑥ 参加者 約 900名、うち加古川線利用者 約 230名 【成果】 ・万博期間中、地元地域と連携したリレーマルシェの連続開催（7/26、8/9、8/22）など集中的に利用促進に取り組んだ。 ・また、万博終了後も引き続き継続してリレーマルシェ（11/22、12/26）を開催するなど、地元住民の気運醸成と鉄道利用者増加につなげることができた。 【今後の展開】 引き続き実施することで、地元住民の更なる気運醸成につなげていく。					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】環境学習ツアーの実施	加古川線の久下村駅等を発着とし、丹波地域を周遊し、生物多様性や森林環境を学ぶツアーを実施した。 ・実施日時 令和7年8月9日（土） ・実施場所 丹波の森公苑	1,504千円	丹波県民局	●	●	
（実施結果・今後の展開等）	【実施結果】参加者27名（JR加古川線利用者19名）、募集人数40名 【成果・課題】応募人数は40名に達していることから、丹波地域での環境学習の魅力は高く、JR加古川線を利用しやすいコースを造成し、利用促進に繋げることが必要である。 【今後の展開】JR加古川線を乗車する周遊プランを造成するなど、引き続き、地域資源の魅力発信に努め、加古川線の利用促進につなげていく。					
【新】加古川線フォトコンテストの実施	12/6のリレーマルシェ「谷川昼市」に合わせ、イベント前から、加古川線に親しんでもらおうと若手職員らによる「ユースチーム」で企画。車両、駅舎、沿線風景の3部門の写真を募集した。	谷川昼市 予算内	丹波県民局		●	
（実施結果・今後の展開等）	【実施結果】応募数59点、大賞兼部門賞（車両） 1点 部門賞（駅舎、沿線風景） 各1点 【成果】加古川線沿線地域を中心に、県内各地域や大阪在住者からも応募があり、加古川線の魅力が伝わる作品が集まった。 【今後の展開】加古川線の魅力の発信を継続していく。					
JRローカル線駅周辺活性化モデル事業（県・市町協調事業）	駅周辺の賑わい等を生み出す新たな取組を行う事業者等に対する補助 （補助率1/2、上限200千円）	200千円	兵庫県、西脇市、 ×3件 丹波市		●	●
（実施結果・今後の展開等）	【実施結果】 ①久下村駅前に観光案内版等設置 ②西脇市駅前にイルミネーション設置 ③谷川駅前のシェアキッチン（サンキッチン）PR					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【拡】定期券購入・駐車場利用料金の支援と定期券購入者自転車貸出事業	①通学定期券購入補助 ②（新）通勤定期券購入補助 ③自転車貸出事業 ④（新）駅等周辺駐車場利用料金助成	①2,982千円 ②1,425千円 ③ 296千円 ④1,200千円	①西脇市、丹波市 ②西脇市、丹波市 ③西脇市 ④西脇市	●		
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】利用者①86名②20名③15名④9名【期間】4月～ 【成果・課題】 ①昨年度に比べ利用者がに増加した。自転車通学から電車通学へ変更した利用者もあり、好評を得ている。 ②自動車通勤から電車通勤に変更した利用者が多く、鉄道利用への転換に有効な取組となった。 ③利用者からは非常に助かると好評を得ている。より多くの方に有効に利用いただけるよう更なる周知が必要 ④駐車料金の補助をすることにより自動車利用から公共交通利用へと交通手段の転換を進めることができた。 【今後の展開】制度を継続し、さらに周知を図ることにより、鉄道利用者の増加を図る。					
加古川線団体利用助成事業	①社会学習利用助成 ②団体利用助成	①550千円 ②800千円	西脇市・丹波市	●	●	
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】利用者 ①173名 ②1115名 【期間】4月～ 【成果・課題】沿線の学校園や一般の団体で補助制度を利用した鉄道利用を進めることができた。今後、この地域で活動の幅を広げていく若い世代や一般の方のJR加古川線への愛着を育むため、より多くの方に制度を利用してもらうことが必要。 【今後の展開】引き続き、多くの方に鉄道を利用してもらうため周知を進める。					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】西脇市制20周年記念事業 JR加古川線イベント列車の運行	市制20周年を契機に、地域の公共交通の重要 性とJR加古川線沿線地域の魅力を再認識する ことを目的に、貸切イベント列車を運行した。 ・実施日時 令和7年12月20日（土） ・実施区間 加古川線 加古川駅～谷川駅	500千円	西脇市		●	
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 参加者 61人 【成果】 西脇市制20周年を記念し「日本のへそ・西脇おもてなしトレイン」を運行、 市制20周年記念酒の試飲や特製弁当のふるまい、西脇高校生による電車内での播州 織ファッションショーなどの催しにより参加者から喜びの声をいただいた。					
【新】西脇市制20周年記念事業 グルメイベント「肉バルin日本 へそ公園」の開催	西脇市制20周年記念事業として市の特産品を 集めたグルメイベント「肉バルin日本へそ公 園」を開催 ・開催日時 令和8年3月14日（土） ・開催場所 日本へそ公園	8,000千円	西脇市			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 参加者6,000名(うち鉄道利用者477名) 【成果】 西脇市制20周年を記念し「肉バルin日本へそ公園」を開催。JR西日本と連携し、 2往復増便や2両への増結を実施するとともに、鉄道利用者へは会場で利用できる 500円分の金券を配布するなど、鉄道を利用しやすく、お得に利用できる工夫をし た結果、多くの方に加古川線を利用してもらうことができた。				●	

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】「ぶらり加古川線tabiwa 1 Dayパス」の提示で入館無料 JR加古川線の1日乗り放題切符「ぶらり加古川線tabiwa 1 Dayパス」の購入者を対象	①日本へそ公園駅付近にある「岡之山美術館」と「にしわき緯度経度地球館」の入館料を無料にした。 ・実施期間：4月13日（日）～10月13日（月・祝）	－	西脇市			
	②リニューアルオープンした「たんば恐竜博物館」（ちーたんの館）の入館料の無料及びミュージアムショップでのノベルティ配布を実施した。 ・実施期間：7月12日（土）～10月13日（月・祝）	－	丹波市			
（実施結果・今後の展開等）	【実施結果】 ①利用者154名(岡之山美術館73人、にしわき緯度経度地球館81人)②利用者168名 【成果】 ① 1日乗り放題切符「ぶらり加古川線tabiwa 1 Dayパス」(JR西日本主催)の掲示による沿線施設入館料無料キャンペーンにより、多くの方に加古川線と地域の観光をセットで楽しんでもらうことができた。 ② 1 Dayパスは大人対象であるが、販売実績にカウントされない同行する子どもも含めると、販売実績以上の利用促進を図ることができたと考える。 特に8月は夏休み期間のため、多くの利用があり加古川線での来訪を促せた。				●	
	【今後の展開】 加古川線沿線施設は地域の魅力を伝える大きなポテンシャルを持っており、加古川線に乗り、沿線施設を楽しむコースは利用者増に向け有効である。引き続き各施設と連携の上、加古川線の観光利用の増加に向けた取組を進める。					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
JR加古川線（西脇市駅－谷川駅） 維持・利用促進地域協議会の 取り組み	①緊急応援企画 ～ライド&ゲット！電車に 乗って、プレゼントをもらおう～ の実施 ・実施期間：10/1～10/13 ・利用者数63名 ②乗車を呼びかけるチラシの配布等啓発の実施 ・実施時期：9月 ・実施場所 ○西脇市茜が丘複合施設Miraie(みらいえ) ○たんば恐竜博物館 ③リレーマルシェなど利用促進イベントへ の参画（7/26、8/9、8/22、11/22、12/6） ④啓発資材の作成（懸垂幕・啓発チラシ・沿線 サイクリングマップ）等	1,000千円	JR加古川線(西脇市駅－ 谷川駅)維持・利用促進 地域協議会	●	●	
(実施結果・今後の展開等)	【成果】 設立から2年目をむかえ、地域協議会のメンバーが、啓発チラシを直接住民に渡 して利用促進を呼びかけるなど、積極的な啓発活動が、地元住民の気運醸成につな がっている。また、利用者に向けて市が行う「団体利用助成」でも住民に対して申 請支援を行うなど、行政とも連携した取組は利用促進につながっている。 【今後の展開】 引き続き、行政と連携しながら住民の鉄道利用の呼びかけ等の利用促進の取組を 進めていく。					
JR西日本アプリ「WESTER」 を活用した沿線情報の集約・発信	沿線自治体提供の観光スポットやイベント情 報を、JR西日本アプリ「WESTER」に集約し て情報発信した。	－	JR西日本 沿線自治体			
(実施結果・今後の展開等)	【期間】 通年 【実施状況】 「第3回マルトリエ」等イベント情報を掲載 （西脇市）スポット7件、イベント7件（丹波市）スポット7件、イベント5件 を掲載				●	

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
観光情報誌「西Navi」を通じた 地域のイベント情報の発信	JR西日本全エリアの駅に配架されている西Naviを通じて、地域のイベント情報を発信した。	—	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 通年 【成果】 下記イベント内容、ご当地自慢を掲載 5月「小枝繁昭-花のワンダーランド展」@西脇市岡之山美術館 6月「播州織産地博覧会」@Orinas～旧来住家住宅 7月「丹波市立たんば恐竜博物館リニューアルオープン」 8月「日本のへそ西脇夏まつり」@日本へそ公園 9月「播州織」@播州織工房館 「にしわき横尾忠則コレクションⅤ展」@西脇市岡之山美術館 「西脇・多可オープンファクトリー『もっぺん2025』」 @道の駅北はりまエコミュージアム 11月「西脇市文化祭文芸まつり」@西脇市総合市民センター 12月「アピカ・アンサンブルコンサート」@西脇市立音楽ホール 1月「にしわき横尾忠則コレクションⅥ展」@西脇市岡之山美術館 【今後の展開】 今後も地域から頂いたイベント情報を掲載。			●		
加古川線プロモーション動画 放映、ポスター掲出	加古川線沿線のお出かけスポットを紹介する広告を近畿地方の駅や車内で実施した。	—	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 4月～10月 【成果】 下記取り組みにより、駅や車内で通行人に加古川線や沿線スポットについてPR。 ・沿線の特産品やお出かけスポットを紹介するポスターを京阪神エリアの駅や車内に掲出 ・大阪駅や三ノ宮駅、関西空港駅のデジタルサイネージ放映 ・JR神戸線、JR京都線、JR宝塚線等でのWESTビジョン放映 ・大阪駅「暁の広場」のセントラルサウンドビジョン放映				●	

17

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
沿線行事のPR	沿線行事のポスター・パンフレット等を駅に掲出した。	—	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 通年 【成果】 多くのお客様の目に留まる駅等で掲出。 【今後の展開】 今後も可能な範囲で協力。				●	
【新】「WESTER」デジタルスタンプラリーの実施	JR西日本アプリ「WESTER」を活用した、駅や対象スポットを巡るスタンプラリーを通じて誘客を促進した。	—	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 4月13日（日）～6月13日（金） 【成果】 スタンプラリー参加者数 395人				●	
【新】利用実態調査	乗車・降車駅、利用者属性について乗り込み調査を実施した。	—	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 実施結果は「加古川線ご利用状況説明資料」にまとめた。 https://web.pref.hyogo.lg.jp/nhk02/kakogawasen_wt/nananenndo.html 【期間】 4月～10月、1月			●	●	

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】 加古川線の増発及び特急列車を 谷川駅に臨時停車する実証実験	昼間時間帯の列車を増発することで、加古川線（西脇市～谷川駅）の利用が増加するかどうか検証した。併せて、特急こうのとり谷川駅への臨時停車を実施した。	－	JR西日本			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 4月13日（日）～10月13日（月・祝） 【成果】 1日2往復4本 平均乗車人数 10.5 人/本（平均乗車率 6.3%） ※定員 125 系（1 両）： 114 人、103 系（2 両）： 278 人 こうのとり12号、14号、16号、17号の4本 平均乗換者数 0.6 人/本			●	●	
【新】 おとな旅あるき旅放送	テレビ大阪の番組で、俳優の三田村邦彦さんがゲストを連れて、加古川線の「オススメぶらり旅」を紹介した。	－	JR西日本		●	
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【成果】 4月26日（土）に放送。放送後、YouTubeで配信。（3月時点 6.5万回再生）					
【新】 「ぶらり加古川線tabiwa 1 Dayパス」の発売	加古川線を1日乗り放題できるデジタルパスを発売した。	－	JR西日本		●	
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 4月13日（日）～10月13日（月・祝） 【成果】 発売実績 861枚					
【新】 週末開催！西日本じまん市	万博開催期間中にJR西日本と地域が連携し、大阪駅、新大阪駅を舞台に地域の魅力を発信した。	－	JR西日本 各自治体		●	
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 【期間】 8月23日（土）、24日（日） 【成果】 新大阪駅在来線コンコースにて、北播磨地域の観光・文化・特産品の魅力を幅広い層に伝え、加古川線クイズや多可町のお米の販売などを実施。					

令和7年度の取組結果（一覧）

参考資料 1

（参考）JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会事業

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
列車内鉄道絵画展	県内の園児・児童を対象に列車や駅をテーマにした絵画を募集し列車内絵画展を開催	－	交通事業者、商工会議所、市町、県			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 ・応募608点(うちJR325点)、入賞者14名 ・鉄道事業者の協力のもと、列車内に作品を展示し、本人、家族等の鉄道利用が図られた。 【今後の展開】 継続して実施予定				●	
鉄道沿線ガイドの発行	鉄道沿線で開催されるイベント情報を掲載したガイドを発行	－	交通事業者、商工会議所、市町、県			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 ・発行年4回（季刊）				●	
JR加古川線 厄神車両基地見学会	鉄道の良さや魅力を再発見してもらうことで、鉄道のファンを獲得し、利用促進につなげるための見学会を開催	－	交通事業者、商工会議所、市町、県			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】 181名 参加 【期間】 10月11日 【実施内容】 車両洗淨見学、レールカート乗車、鉄道模型(Nゲージ)の操作、車内放送体験、踏切操作器取扱体験、缶キャッチャーで宝探し、マスコットキャラクターと記念写真 【今後の展開】 継続して実施予定				●	

（参考）丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会事業

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【新】二次交通の定期運行による恐竜スポット周遊促進事業	大阪・関西万博に合わせて、久下村駅と谷川駅からたんば恐竜博物館を結ぶ「グリーンスローモビリティ」（グリスロ）の定期運行とたんば恐竜博物館での電動自動車「トゥクトゥク」の貸出しにより、恐竜化石発見地等の恐竜スポットを周遊した。	—	自治体、商工会、観光協会、民間団体等			
(実施結果・今後の展開等)	【実施結果】グリスロ：585名、トゥクトゥク：33名 【期 間】グリスロ：8月30日～10月13日の土日祝（17日間） トゥクトゥク：9月13日～10月13日の土日祝（13日間） 【成果・課題】 ・グリスロ、トゥクトゥクは乗車定員が3～6名と少数であり、輸送手段としては活用しにくい面があるが、人目を惹く形状で乗りたいという声も多く、一定の利用があった。 ・また、鉄道駅と恐竜スポットを二次交通で移動することで、加古川線を利用し、徒歩でもアクセスできることを実感いただくことができた。 【今後の展開】 鉄道駅からのおすすめウォーキングコースをPRするなど、電車と徒歩で周遊可能なことを周知し、加古川線の利用促進につなげていく。				●	